

**本放送を目指した準備が始まった！**

**DRP 東京運営委員会副委員長  
藤井 彰（TBSラジオ）**

# 基本姿勢

③ DRP

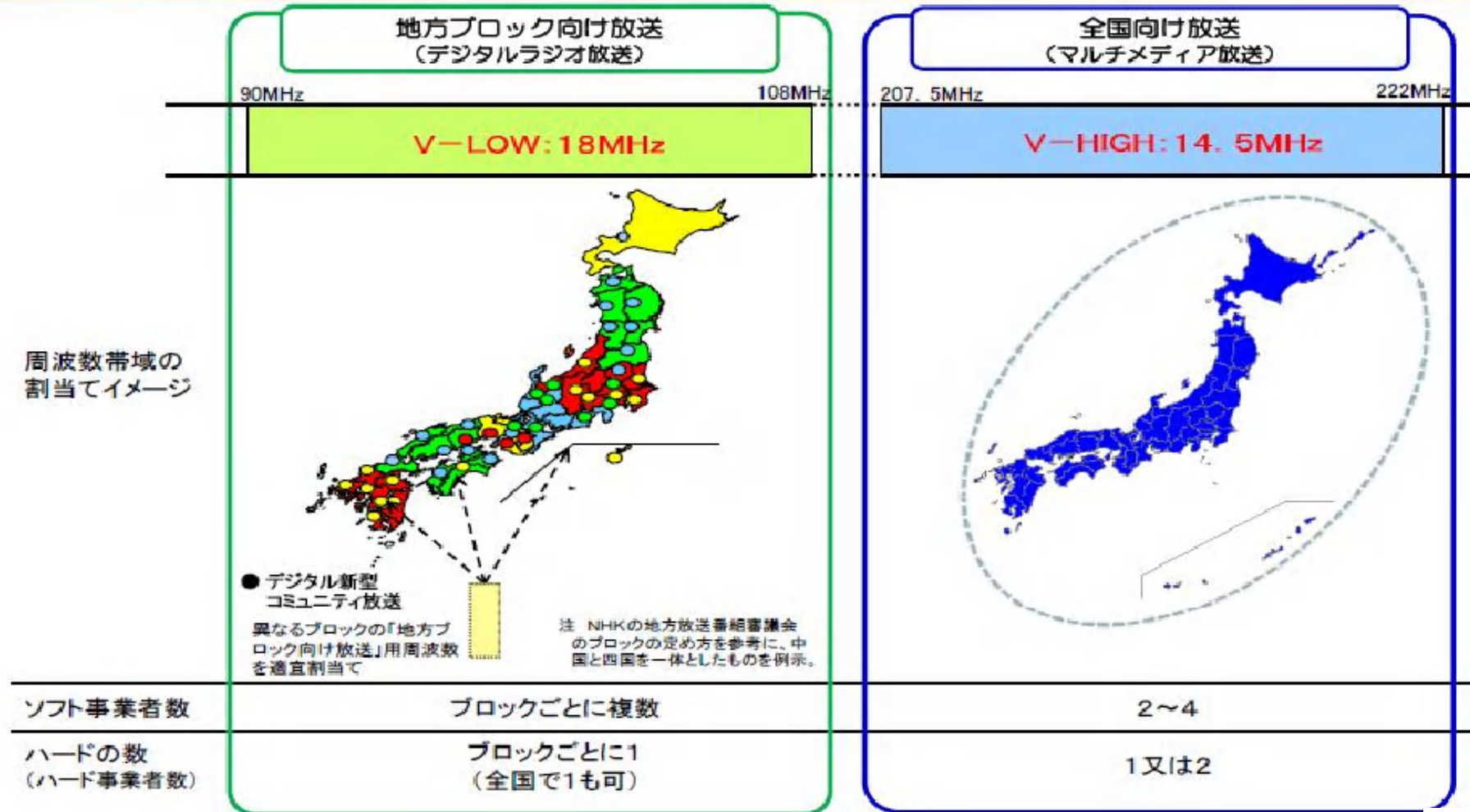
- 1セグメント放送を基本としたデジタルラジオを指向する  
**オールジャパンのラジオ局のノウハウ**
- 新規参入事業者の斬新なアイデアを生かした取り組み。
- 加えて、地域の特性（事情）に十分配慮したサービスのあり方を検討。

# 実現に向けた検討を開始



- 東京・大阪で現在実用化試験放送をおこなっている社で、シンクタンク等の協力を得ながら、  
事業計画・設備計画の策定を先月から開始。
- その他のブロックのラジオ局とも協議を開始。

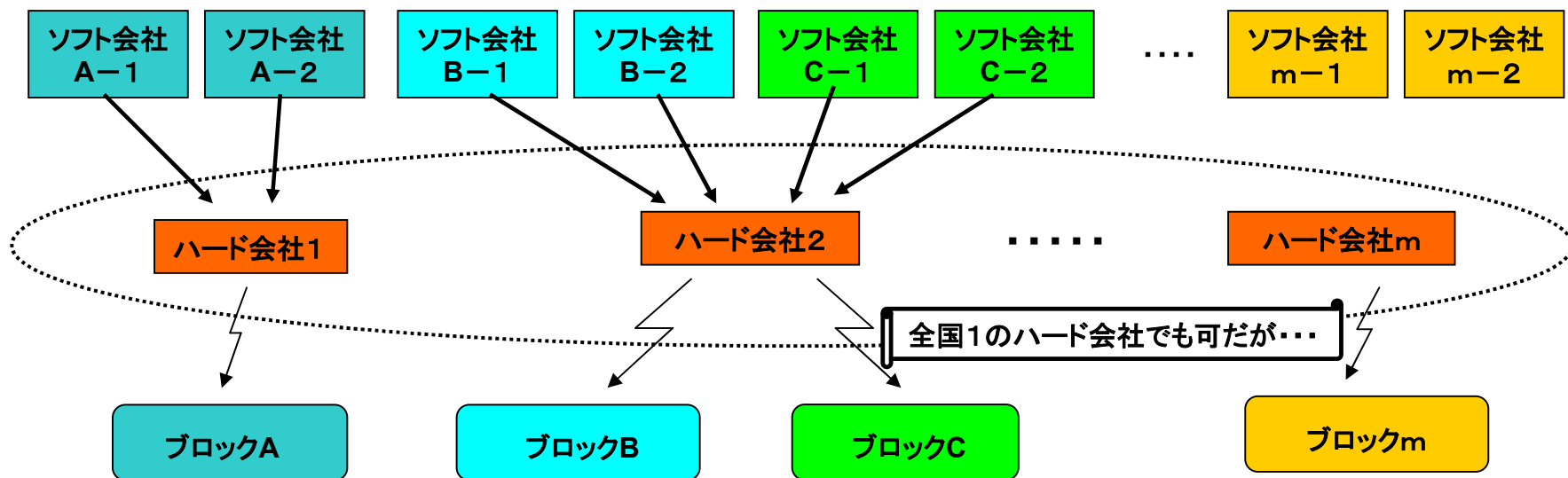
## 周波数帯域の割当てイメージ等



懇談会報告書(案)から引用

7つまたは8つのブロック化。今までのラジオのビジネス形態(県域、広域)を超えたサービスの在り方が前提となる。

# ブロックの事業スキームについて考える



ハード会社は各ブロック1、ソフト会社は複数。ハード会社にはソフト会社(または放送事業に参入を希望する各社)が出資。ハード会社は複数のブロックにまたがる会社も検討。

# コンテンツ

- 全国向けコンテンツ
- ブロック向けコンテンツ

を多彩に組み合わせた**多チャンネル放送サービス**。

各ブロックでの固有の課題に配慮した枠組みを検討中。  
また普及を促進させるために、アナログ放送のサイマルも一定数検討。

\* サービス数は周波数計画、技術方式によって変わることから検討中。

# ビジネスモデル

- 民放は無料広告放送が基本
- 都度課金のダウンロードサービスなどを組み込みこんだ複合的なビジネスモデル。

# 受信端末



- 車載端末
- 携帯電話端末
- 携帯ラジオ型端末
- ホームラジオ型端末

あらゆる生活シーンの横にある端末を想定。

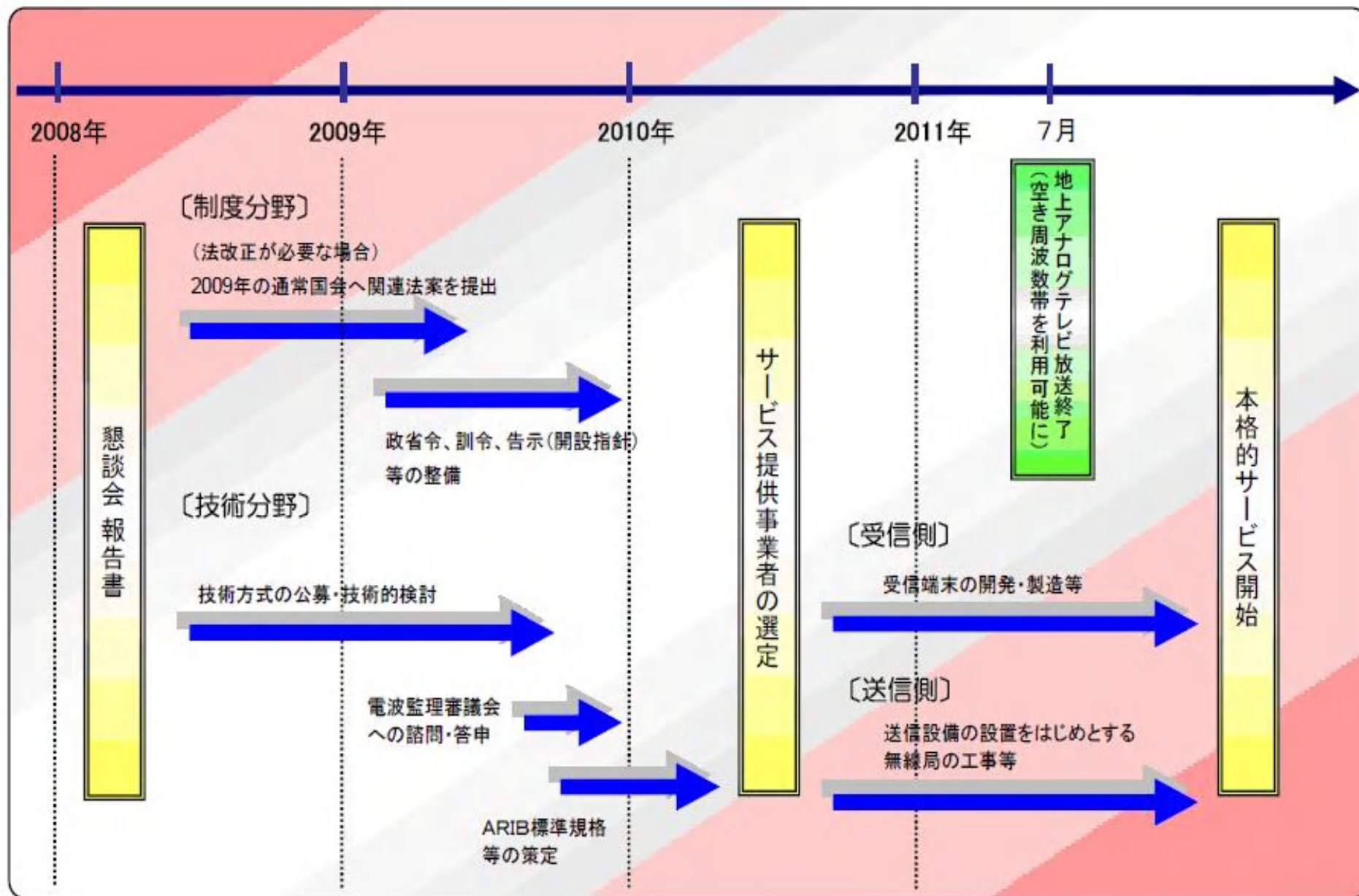
- 通信機能を持たない端末でもダウンロードサービスが受けられるなどの仕組みも検討

# 新規参入

③ DRP

1 セグメントを基本とした「放送サービス」であることを前提として

- 参入を希望する社は歓迎。
- 新たなビジネスモデルの提案も歓迎。



懇談会報告書(案)から引用